

平成31年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	02	01	06	124240	まち・ひと・しごと創生総合戦略推進事業費	
総合計画	分野	05	行政経営	政策	01 効率的・効果的な行政運営	
	施策	04	行政評価の活用			
目的	「花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略」により実施した施策・事業の効果検証等を行い、必要に応じて改定を行う。					
対象	花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略					
意図	計画的に事業が進捗し、P D C Aサイクルが機能している					
事業概要	第1期総合戦略の効果検証 118千円 第1期花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略（H27～31）により実施した事業の効果検証 第2期総合戦略の策定準備 990千円 まちづくり総合計画第3期中期プランと整合をとりながら第2期総合戦略を策定するための成果指標の検証 移住・定住の推進を図るための住民異動状況分析 他県・県内他市町村との間での異動の特徴、市内の地区間での異動状況についての分析を実施					
市民参加の有無	対象外					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	H30	H31	R02
1	有識者会議開催回数	回	計画	2.00	2.00	
			実績	1.00	0.00	
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	H30	H31	R02
1			目標			
			実績			
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度	-	目標値より高い	-	概ね目標値どおり	-	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
計画の策定及び進行管理を目的としているため。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	総合戦略は自治体が策定し、効果の検証を行うものであり、妥当である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	効果検証において、職員の実績分析力の向上や分析以外の作業の負担の軽減を図ることにより、P D C Aサイクルが機能する。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	ガイドラインに準じた謝礼単価、必要最低限の人員での進行管理・改訂版の策定を行うことから、削減の余地はない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	受益と負担の適正化余地	人口減少と地域経済縮小の克服、まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立を目的とし、全市的な効果を期待する施策を実施することから適正である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	総合戦略に基づき平成30年度に実施した事業の進行管理を行い、4つの基本目標に係る15の重要目標達成指標（K G I）の達成度を把握した。毎年実施している事業実績の把握や達成度の要因分析により、P D C Aサイクルが機能し、平成30年度実績においては、15項目のうち6項目において前年度を上回る成果が表れた。 また、住民異動状況分析により、総合戦略に基づき実施している人口減少対策等に係る施策の効果の分析に役立てることができた。
	次年度に向けて	第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証については、令和2年度の早期に、地方人口ビジョン及び地方版総合戦略策定のために設置した有識者会議において、意見交換を実施する。また、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定についても、第3期中期プランと整合をとりながら令和2年度中に実施することとしている。 なお、事業費の大部分が事務費であることから、令和2年度予算より一般行政経費としており、令和3年度以降においても同様に効率的な事業実施に努める。